

高遠町内 寺院・神社 散策マップ

ゆったりのんびり時代の流れを遡ってみませんか

- 宿泊
- ★ そば処
- 飲食店
- 商店 (お土産・酒・その他)
- ◆ 各施設

① 鉾持神社

高遠城の守護神として歴代領主の厚い信仰を受けた神社。何回か場所が変わっているが、現在の地に移ったときに地中から鉾が出たのでこの (鉾持神社石段) 鉾を御神体として祀り「鉾持神社」と名付けられた。「2月11日のだるま市」「9月23日の燈籠祭」などの大祭が行われる。JR高遠駅から少し北に歩くと急な階段が天に登りつめるかのように続いている。
※石段の数は321段



町の中の花

高遠の花は桜だけではなく、高遠町内のプランターの花・バラの鉢植えなど、市民が楽しみながら、心を込めて育てた花が咲き競う。



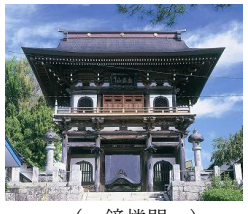
⑤ 建福寺

守屋貞治の石仏群や仏足石のある石仏の寺。戦国時代には武田氏の庇護を受け隆盛を極めた。武田勝頼が出した朱印状が伝わるほか、勝頼の母である諏訪御料人のもと伝えられる位牌や墓がある。また、保科家の菩提寺としても知られ正直や正光の墓がある。
← (三十三観音)



⑥ 満光寺

鐘楼門の寺。かつて科(しな)の木を使い、善光寺になぞらえて建てられたので、信濃の科寺とか、伊那善光寺とも呼ばれた。境内にある樹齢数百年の古松は「極楽の松」と呼ばれ、この松を一目見ると必ず極楽往生できると伝えられている。内藤家の菩提寺である。



② 水場

城下町高遠の昔ながらの通りには、生活のための水場があった。現在でも共同で使っている。



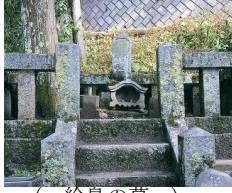
③ 民家中村家

表を格子戸で囲まれた、いかにも城下町らしい家。昔の本通りで在りし日のたずまいを残している。



⑦ 蓮華寺

絵島の墓・七面堂がある寺として知られている。初めは長遠寺といい、高遠北原にあったが鳥居氏により現在の場所に移され、後に蓮華寺と改称された。七面堂は当初、鳥居氏が四代將軍家綱の位牌堂として建立し、改易後に七面明神が祀られた。
※絵島：大奥の大年寄で絵島事件により高遠へ流罪になった。花畑の囲屋敷で61歳の生涯を閉じ、遺体は遺言により蓮華寺に葬られた。



⑧ 香福寺

高遠、最古の創建。745年に行基菩薩が高遠の地を訪れた時、奇岩を見て薬師如来の薬壺がひらめいたので、そこに一棟のお堂を建て、薬師如来を彫って本尊とし、法相・三論の道場を開いたのが始まりで現在は真言宗となっている。中世、この寺の前に門前市が立てられ賑わったが、その後度重なる火災や織田軍による焼き討ちにあい、かつての盛時をしのぶ影もない。秋の紅葉はとても鮮やか。



二十二夜様
二十二夜様とは旧暦7月22日に行われる月待ち行事。女性によって担われてきた行事で、俗に「二夜様」といわれる。岩壁には守屋貞治の延命地蔵尊・庚申塔などがある。

下屋造り
崖造りした家では、家の床下にも部屋がある。

高遠大橋・白山橋からの風景
中央アルプス・南アルプスの望める絶好のビューポイント。ここからの町並みも美しい。

伊那市民俗資料館
歴史的建造物2棟と資料館という3館により構成された博物館。
※定休日：水曜日 入館料：200円(3館共通)

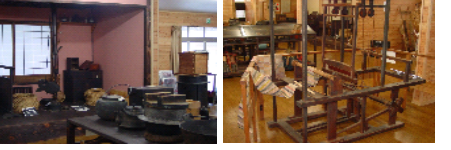
④ 旧池上家
人の往来で賑わう城下町の中で、醤油や酢の醸造販売を行っていた池上家。帳場脇から東西に続く土間など、「うなぎの寝床」といわれる商家の間取りを現在に留めている。
(池上家内部) (外観)



⑨ 旧馬島家住宅
江戸時代に高遠藩の眼科医を務めた馬島家。天保年間(1830~43)に建造された藩医の住宅(上級武士にも匹敵する家構え)があまり改造されず現存しているのは全国的にもめずらしい。
(旧馬島家内部) (外観)



⑨ 高遠なつかし館
ちょっと前には当たり前にあった道具や風景。知っている人も知らない世代もどこか懐かしさを感じる昔の暮らしを紹介。機織りや縄ないの体験もできる。「観て・触って・やってみる」体験的資料館。
(なつかし館内部) (機織機)

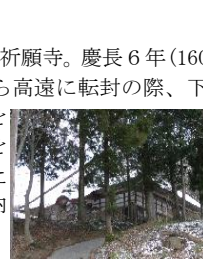


弁天岩
藤沢川と三峰川の合流点の大きな岩の上に弁天様が祭られている。岩は弁天岩と呼ばれ、非常に硬い火山性の閃緑岩(高遠石)できている。

⑫ 伊那市立高遠町歴史博物館
高遠藩主内藤家に伝わった家宝の兜や高遠城をはじめとする郷土の歴史を語る重要な資料を多数収蔵展示。絵島囲み屋敷(絵島の暮らした囲み屋敷を当時の見取り図を元に復元したもの)併設。H21年建立の名君保科正之公の像、母お静の顕彰碑もある。
※保科正之：徳川二代將軍秀忠の子で三代將軍家光の異母弟。保科家の家督を継ぎ高遠藩主となった後、出羽山形藩主・会津藩主となり四代將軍家綱の後見人。
※定休日：月曜日 入館料：400円



⑬ 樹林寺
保科家、鳥居家、内藤家の祈願寺。慶長6年(1601)保科正光が下総の多胡から高遠に転封の際、下総樹林寺の本尊、夕顔観音を移し造らせ、観音堂の土を運んできて城の鬼門に当たるこの地に建設した。境内には名君保科正之顕徳碑、お静の供養塔がある。



⑪ 伊澤修二の生家
日本の音楽教育の基礎をつくり、東京師範学校長・東京盲啞学校長・東京音楽学校長(現在の東京芸術大学)を歴任した伊澤修二が生まれた家。

⑮ 桂泉院
眺望絶景の寺。元は高遠城内にあって法幢院といい、織田勢による落城時には法要が営まれたが、後に月藏山麓に移され桂泉院に改称した。寺の梵鐘は織田信忠が高遠城を攻める際、飯田市の名利開善寺から略奪し陣鐘として引きずってきたもので長野県宝。境内には仁科五郎盛信の位牌殿がある。
(信忠が飯田から持ってきた梵鐘)



⑯ 文学の小径
桂泉院から峰山寺にかけて、新たな歌碑や句碑が建てられ、文学の散歩道となっている。眼下に高遠城址が望める。また、高遠城落城の時、うろの中にお姫様が隠れたという伝説の巨大な桂の木もある。



⑩ 進徳館
高遠城内の三の丸に設けられた高遠藩の藩校。城址公園の横の石段を上がり古い門をくぐった先にある茅葺屋根の進徳館は江戸時代から現存する唯一の建物である。ここで学び教育界で活躍した人が多く、伊澤修二をはじめわが国の近代教育を担うリーダーを生んだ。



⑭ 西龍寺
本寺は鳥居忠春が高遠藩主となった寛永13年(1636)山形から移った真宗西本願寺(当時)の末寺。この寺には仕えていた女中が暇をとって帰る時お札に書き残していった「狐の曼荼羅」が残っている。実はこの女中は狐の化身で曼荼羅に狐の毛がいつばいついていたと伝えられている。(西龍寺の門) →



⑰ 峰山寺
鳥居家の菩提寺。鳥居忠春が父忠正の追悼のために堂宇を再興して、峰山寺と改称した。本尊は文覚上人作と伝えられる不動尊で靈驗あらたかな秘仏。境内の墓地には鳥居忠春とその生母の墓や藩学者の阪本天山・中村元恒、政治家中村弥六らの墓もある。
(鳥居家の墓) (峰山寺)

